

「児童発達支援・放課後等デイサービスに関するアンケート」調査結果（概要）

1. 調査の趣旨

「第3期神戸市障がい児福祉計画」の策定にあたり、障害児通所支援サービス（児童発達支援・放課後等デイサービス）の利用状況や利用意向を把握し、障害児施策の推進に向けた課題や今後の支援策を検討することを目的に、以下のとおりアンケートを実施した。

2. 調査対象

（1）児童発達支援に関するアンケート

神戸市内の認定こども園、保育所（園）、幼稚園で障害児保育の対象児

（2）放課後等デイサービスに関するアンケート

神戸市立小・中学校特別支援学級、市立特別支援学校の在籍者

3. 実施方法及び調査期間

実施方法：こども家庭局、教育委員会の協力により、各施設・学校園から保護者へ案内（協力依頼）、対象の保護者が市ウェブサイトから直接回答（※無記名・個人情報特定無し）

調査期間：令和5年7月19日～令和5年8月15日

4. 結果概要

（1）「児童発達支援に関するアンケート」結果

① 回答者

- ・回答数 399 人（対象者 1,000 人・回答率 39.9%）
- ・回答のあった対象児童の障害等については、「知的な発達の遅れ」が最も多く（198 人、49.6%）、次いで、ほぼ同数で「発達の偏り」（194 人、48.6%）であった。
- ・障害者手帳の取得状況については、身体障害者手帳所持者は 24 人（6.0%）、療育手帳所持者は 143 人（35.8%）、精神保健福祉手帳は 1 人であったが、回答者の半数以上（60.9%）は、手帳を所持していない。

② 児童発達支援の利用状況

- ・児童発達支援を利用しているのは 65.4%（261 人）で、1 人あたりの利用日数は 2.2 日/週。
- ・現在の利用については、「満足している」と回答した者がほとんど（233 人、89.3%）。利用希望（日数）は、現状通りの日数（185 人、70.9%）が最も多く、利用期間については、小学校入学前まで継続したいと回答する者が多かった（179 人、68.6%）。主な利用目的は「支援を受けることで力を伸ばしてあげたい」が大部分（94.3%）を占めた。

③ 児童発達支援を利用していない者（138 人）について

- ・利用していない理由としては、「必要性を感じない」が最も多く（62 人、44.9%）、次いで「保育所等との併用は子どもにとって体力的に負担」が多かった（26 人、18.8%）。「サービス（児童発達支援）

を知らなかった」という回答も一定数見られた（23人、16.7%）。

- ・なお、「今後利用したいと思う」という回答も39.1%（54人）あった。

④ 障害児相談支援等について

- ・障害児相談支援については、56.6%（226人）が「制度を知らなかった」と回答。一方で、ニーズについては、「利用してみたい」が39.8%（159人）、次いで「わからない」が35.3%（141人）、「利用したいと思わない（必要がない）」が24.8%（99人）であった。
- ・なお、子どもの発達についての相談先としては、家族・親族（317人、79.4%）、保育所等の職員（296人、74.2%）、知人・友人（173人、43.4%）の順に多かった。

⑤ 重症心身障害児や医療的ケア児の児童発達支援の利用状況等について

- ・回答者のうち、重症心身障害児（7人）については皆、児童発達支援を利用していた。平均利用日数は2.3日/週で、今よりも利用日数を増やしたいという回答が多かった（5人・71.4%）。
- ・また、「医療的ケアの必要がある」と回答があった者（21人）のうち、児童発達支援を利用していたのは18人（85.7%）で、平均利用日数は2.3日/週。現在、サービスを利用していない3人のうち2人は「今後利用したいと思う」という回答であった。

(2) 「放課後等デイサービスに関するアンケート」結果

① 回答者

- ・回答数681人（対象者3,727人・回答率18.3%）
- ・回答者のほとんどが（632人・92.8%）が何らかの障害者手帳の交付を受けており、療育手帳所持者が最も多かった（618人、90.7%）。

② 放課後等デイサービスの利用状況

- ・放課後等デイサービスを利用しているのは85.3%（581人）で、平均利用日数は4.1日/週。
- ・複数の事業所を利用している者は49.9%（290人）。
- ・現在の利用については「満足している」と回答した者がほとんど（502人、86.4%）。利用希望（日数）は、現状通りの日数（394人、67.8%）、もしくは利用日数を増やしたい（157人、27.0%）者が多く、利用期間については「高校卒業まで利用継続したい」が最多（443人、76.2%）となっており、ニーズの高さがうかがえる。なお、主な利用目的としては「支援を受けることで力を伸ばしてあげたい」が最多（40.3%）であるが、それとほぼ同数（39.4%）で「家族の就労や用事、休養のため」あるいは「安心して預かってもらえる場所が必要」といった回答があった。

③ 放課後等デイサービスを利用していない者（100人）について

- ・利用していない理由としては、「こどもに合った事業所がないから」が最も多く（37人、37.0%）、次いで「必要性を感じない」が多かった（35人、35.0%）。なお、「制度を知らなかった」という者はいなかった。
- ・さらに、「今後利用したいと思う」という回答も37.0%（37人）あった。

④ 障害児相談支援等について

- ・障害児相談支援については、40.1%（273人）が「制度を知らなかった」と回答。ニーズについては、「利用してみたい」が33.6%（229人）、「わからない」が34.7%（236人）、「利

用したいと思わない（必要がない）」が9.5%（65人）であった。

- ・子どもの発達についての相談先としては、家族・親族（510人、74.9%）、学校の教職員（481人、70.6%）、放課後等デイサービス事業所（400人、58.7%）の順で多かった。

⑤ 重症心身障害児や医療的ケア児の放課後等デイサービスの利用状況等について

- ・重症心身障害児（78人）のうち、放課後等デイサービスを利用していたのは70人（89.7%）で、平均利用日数は4.2日/週。主な利用目的として「家族の就労や用事、休養のため」または「安心して預かってもらえる場所が必要」という回答の割合が7割（72.9%）を占めた。また、サービスを利用していない8人のうち7人から「今後利用したいと思う」という回答があった。
- ・一方、「医療的ケアの必要がある」と回答があった者（68人）のうち、放課後等デイサービスを利用していたのは55人（80.9%）で、平均利用日数は3.8日/週。主な利用目的として「家族の就労や用事、休養のため」または「安心して預かってもらえる場所が必要」の割合が、こちらも過半数（54.5%）を占めた。さらに、サービスを利用していない13人のうち、9人（7割）から「今後利用したいと思う」という回答があった。

5. まとめ

アンケート回答者のうち、児童発達支援については、利用率が6割以上（65%）、放課後等デイサービスについては、利用率が8割以上（85%）であった。

サービスに対する満足度はいずれも高く、引き続き利用を継続する意向がほとんどである。また、放課後等デイサービス利用者については、療育に加え、預かりニーズも非常に高いことがうかがえる。さらに、現在利用していない者の中にも、利用意向のある者が一定割合いる。

以上のことから、児童発達支援・放課後等デイサービスは、依然としてニーズが高く、今後も利用者数、延べ利用日数は増えていくものと推測される。

障害児相談支援については、引き続き、利用対象者に制度を周知していくことも必要と考えられる。